

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐山高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月9日(月) 14:10~16:10
- 3 開催場所 岐山高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業見学を実施した
- 4 参加者 委員 長谷川哲也 岐阜大学教育学部 学校教育講座 准教授
中川ひろみ 岐阜大学医学部 地域生涯発達看護学講座 教授
石井 郁夫 長良東自治会連合会 会長
内田 真樹 長良東民生委員 主任児童委員
若井 悟 本校元同窓会長

学校側 増田 泰志 校長
尾関 香織 教頭
山田 茂雄 教頭
川口 晋 教務部長
有賀 浩樹 生徒支援部長
黒木 綾子 進路支援部長
小島 隆史 教務副部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業(2年生普通科探究活動発表会) 見学についての感想

感想1: 一昔前はマイクもプレゼンもなく、聞き取りにくい時があったが、今は発表の仕方を見ても時代が新しくなった印象がある。生徒の「伝えよう」という気持ちが見られて感心した。興味深い内容でよかった。近隣の中学校に向けてもこのような発表があるとよい。

感想2: 大学でのフィールドワークにつながるものがあった。大学で行っていることに近い印象がある。

感想3: 大学も総合選抜型入試を本格的に導入し始め、共通前入試は、高校で何をしたかが重要となる。大学での研究活動に密接にかかわる内容で、高校でこのような発表を行うのは大変意義がある。上石津中でも同じような活動を本格的に行っており、中高大での連携が行えるようになると面白く感じる。

感想4: 子供会と紙飛行機の発表を見た。子供会関係の探究活動は興味深かった。今の子供たちが親になり、活躍するのを期待する。

(2) 今年度の取組の振り返りと次年度へ向けての改善点について

①岐山高校の教育活動について

学校説明：実施報告と次年度の活動について今年度との変更点。来年度は、例年通りの行事日程で進めていく。岐山祭は9月実施、球技大会は5月実施。

②令和7年度 自己評価・学校関係者評価について

【教務関係】

⇒学習指導については、教務部のみならず学年団とも連携している。CM シートの作成を行い、教科内で情報共有させ、教科研修会等を通して教員の資質向上に努めた。本校は、中堅教員が多く、研修を積極的に受けてもらっている。中学生に対する PR を夏休み中に行い、ふるさと教育週間においても地域の方々に本校をアピールすることができた。1年理数科のリサーチゼミ発表会もたいへん好評であった。

【生徒支援関係】

⇒人権について理解を深める行事を行うことができた。最近の生徒を見ると、人権についての理解がしっかりとされていると感じる。しかし、コミュニケーション能力については、養わせる必要があると感じる。すぐに謝罪できないことや、事が大きくなる前に対処するという行動がとれない様子が見られる。アンケート調査で細々としたトラブルがあるのがうかがえる。教員間では情報共有を徹底して行うことができています。今のところ、重大事案は起こっていないが、情報共有不足によるトラブルはあったため、来年度の課題となる。他校と比べると比較的安心・安全に生活できる環境ができている。

【進路支援関係】

⇒共通テスト、模擬試験の申請等が web への移行した年度であった。生徒に対して、web 関連の申請を滞りなく行わせた。探究部との連携が色濃く、探究的な経験を積み上げ、個々の進路に結びせる活動を行っている。進路後援会・リサーチゼミを積極的に行い、進路意識を高めさせた。進路資料室や閲覧可能資料を活用させることができた。来年度へ向けて、3年間でのキャリア教育として見通しを持った計画を作成させていきたい。模試の活用について教える必要がある。普通科生徒にも理数科生徒以上に探究活動の充実をさせたい。

【特別活動関係】

⇒文化祭の際に、生徒が主体となり近隣のドーナツ屋との連携を行った。今年度は球技大会を行えなかったが、来年度は行う。新校舎での文化祭が初めてとなるため、見守りながら進めていきたい。ボランティア活動は十分とは言えず、生徒が主体的に参加できるように動いていきたい。

意見1：中学生に対するアピールにおいて好評な部分はどこだったのか、アンケート等を行っているのか。これからも地域に根差した高校としての活躍を期待している。

⇒夏の高校見学会ではアンケートを取っている。概ね学校に対する印象はよく、生徒・保護者ともに好評をいただいている。特に在校生の本校 PR の発表が印象的であるようだ。

意見2：ICT機器の活用の中のAIについてはどういうことを行っているのか。

⇒国語の小論文添削、英語の英作文添削についてAIを活用しながら取り組んだ。教員がいかにかAIを駆使して指導につなげるかを実践的に知ることができた。

意見3：試しに規約についてAIを使用して作ったが素晴らしいものができた。生徒たちもAI活用をして論文作成できてしまうのではないかと感じる。正しく使用させる指導が必要だと感じる。

⇒来年度の探究に関する発表会においてA I活用が想定されるが、生徒にも正しく活用する指導は必須であると感じる。

意見4：今年の3年生の進路志望の傾向はどうか。生徒は、将来を見据えて進路を決めているか。

⇒クラス編成上理系志向は多いが、情報系が文系生徒でも受験可能なため、はっきりと文理で傾向を分けられない。将来を見据えての進路希望をとっている。

意見5：探究が進路支援部と探究部で連携して進めているのは大変良いと感じる。これから大学も生徒の探究に係る能力を重要視していく。一方で、探究での内容と教科の内容とをどう結びつけられるのかが課題である。教科と探究の学びが結びついてくると進路へつながり、学びの深さにもつながる。

意見6：A I活用については、論文の世界でも剽窃チェックにA Iを活用している。A Iは便利であるが、やはりモノづくりにはコミュニケーションが必須であり、今回の探究発表会では生徒のやりとりの中に役割分担や連携が見られ大変良かった。

意見7：岐山高校の生徒は地域でのふれあい等での評判が良い。しかし、地域では、「最近、岐山が荒れている」という噂もあるようである。

⇒服装の自由化によって生徒が自ら考える能力の育成ができていていると感じるが、「あるべき高校生像」や「周囲からの評価」という観点を教えていかなければいけないと感じている。先日も集会を開き、啓発を行い、継続的に指導を行っている。進学実績が充実することで地域からの評価も高まると感じる。

⇒生徒の問題行動がある場合、生徒指導委員会が開かれるが数は非常に少ない。このことから安心・安全に過ごせる環境であるといえる。

意見8：中学生の岐山高校の進路希望はどれほどか。

⇒希望調査によると希望者数は低い。理数科の定員が埋まっていない。やはり、校則と新校舎だけでは中学生はなびかないと職員にも伝えている。

⇒中学校訪問に行くと、理数科に対するイメージの勘違いが多くあることが分かった。正しい広報活動が必要になると感じている。

6 会議のまとめ

- ・今年度の本校の学校経営計画の評価についてご意見を踏まえ報告する確認ができた。
- ・周囲からの評価も踏まえ生徒が安全安心できる学校生活に向け来年度も教育活動を行うので、引き続き支援をいただきたい。